

【生薬名】鹿茸 *CERVI PARVAM CORNU*

【起源動物】マツシュウガカ(馬鹿) *Cervuse laphus var. xanthopygus*

マツシュウガカ(花鹿) *Cervus nippon var. mantchuricus*



【科名】シカ科Cervidae

【別名】鹿角片、血茸片

【薬用部分】牡鹿の幼角(袋角)

【主成分】コラーゲン、磷酸Ca、炭酸Ca、タンパク質、卵胞ホルモン

【薬性】気味は甘鹹温、無毒、帰経は肝腎に属す

【効能】●温腎補陽・強筋骨・健胃・生精補血る

●補陽薬、全身強壯、強精、鎮痛に用いる

●めまい、耳鳴り、耳聾、腰膝の萎弱や冷痛、虚寒証の帯下、慢性病の虚損などに、又近年、鞭打ち損傷に対し応用されている

●自律神経失調症、低血圧症、更年期障害

●小児の発育不良、心不全の動悸、重病や手術後の体力回復

●虚劳羸瘦、精神疲労、手足冷え、尿利頻数、下痢

●婦人病、生理不順、子宮大量出血、貧血、不妊、流産癖、産前産後の滋養(妊婦が飲めば母、胎児ともに有益)、帯下過多など

●粉末を1日0.5~3g(常用量は1.5g)を服用

●5~6g以上飲むと鼻血、頭痛を起こす

●体力の充実している人が服用するとのぼせたり頭痛がおこる

【出典】●治漏下惡血、寒熱驚癇、益氣強志、生齒不老、角、治惡瘡癰腫、逐邪惡氣、留血在陰中。(神農本草經中品)

●鹿茸 甘温、氣を益し、滋陰、洩精尿血、崩帯に堪任す。(薬性歌)

●精を生じ髓を補う、血を養い陽を益す、筋骨を強め健やかにする。一切の虚損、耳聾、目暗、めまい、虚病を治す。(本草綱目)

●男子腰腎虚冷を補う。脚膝無力、夢交、精益自出、女人崩中漏血を主る。(薬性論)

【備考】●虚損とは、七情劳倦、飲食や酒色に破られ、あるいは病後の失調で、陰陽 氣血、臟腑が損傷されて起こる病気である。陽虚による病状は、脾腎の虚損によるものが多い。腎陽が衰微すると一心の陽氣が皆虚する。腎陽虚の症状としては、「飲食減少し、大便薄く又は不消化便、腰膝力なく痛み、精神疲労してだるく、寒がり、四肢冷たく、陽痿して精泄れ、小便は頻数清長で、顔色蒼白、舌淡く白苔があり、脈は沈細或は沈遅である。」

【処方例】●鹿茸大補湯、参帰茸湯(サンギョン湯)、海馬補腎丸